

修士論文（要旨）

2022年1月

農村在住後期高齢者の精神的健康状態に及ぼす新型コロナウイルス感染症の影響

指導 渡辺 修一郎 教授

老年学研究科

老年学専攻

220J6004

鈴木 香

Master's Thesis (Abstract)  
January 2022

Effect of COVID-19 on the Mental Health Status of the Old-old Elderly  
Living in Rural Areas

Kaori Suzuki

220J6004

Master's Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J.F.Oberlin University

Thesis Supervisor : Shuichiro Watanabe

## 目次

緒言 .....	1
第1章 研究の背景 .....	1
1) COVID-19 の現在の状況	
2) COVID-19 の流行が高齢者の健康に及ぼす影響	
3) COVID-19 の感染予防の主な国・地域の取組み	
4) わが国の農村の高齢化の状況	
5) 農村における人口減少	
第2章 先行研究 .....	3
1) 高齢者の精神的健康状態向上の要因に関する先行研究	
2) COVID-19 流行が高齢者の生活に及ぼす先行研究	
第3章 研究の目的 .....	7
第4章 研究の対象と方法 .....	7
1) 研究の対象	
2) 調査方法	
3) 倫理的配慮	
4) 分析方法	
第5章 研究結果 .....	9
第6章 考察 .....	10
第7章 結語 .....	14
謝辞	

引用文献

図表

## 1. 研究の背景と目的

新型コロナウイルス感染症（coronavirus disease 2019; COVID-19）の大流行に伴い、個人衛生の徹底、密閉空間・密集場所・密接場面の回避や予防接種などの予防の取組みが進んでいる。COVID-19に罹患すると重症化しやすい高齢者に対する予防対策が厳重に行われる一方で、高齢者の身体活動や社会参加の抑制が懸念されている。高齢者の身体活動や社会参加が精神的健康に関する先行研究では、後期高齢者が健康向上意識を持ち、自らの意思で毎年健康診断を受診し、結果をもとに生活改善をはかることが機能の維持につながること<sup>26)</sup>、自主活動への参加が精神的健康の低下を抑え、サクセスフル・エイジングを迎えるために意義があること<sup>28)</sup>が示されている。COVID-19流行が高齢者の生活と健康に及ぼす先行研究では、流行による精神的側面はより高齢な層で変化があること<sup>39)</sup>、抑うつ症状の頻度は女性、85歳以上、低学歴・低月収の人で高く、不安症状の頻度は女性、低学歴・低月収の人で高いことなどが報告されている<sup>42)</sup>。COVID-19の予防のための社会参加の制限などの健康影響は人口減少と高齢化が進む農村地域ではより大きくなるのではないかと考えられるが、農村地域での調査研究はほとんどなく、また、縦断的研究によりCOVID-19の流行が精神的健康に及ぼした影響を検討したものは少ない。そこで本研究では、COVID-19の予防のための外出や社会参加などの活動自粛が農村在住後期高齢者の精神的健康状態の変化にどう影響するかを明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究の対象と方法

### 1) 調査対象者

群馬県 A 村の 2019 年から 2021 年の後期高齢者健康診査を 3 年とも受診した者の内、3 年とも調査に同意し回答を得た者を対象とした。

### 2) 調査方法

2019 年 4 月に群馬県 A 村在住の 75 歳以上の後期高齢者 1,721 人を対象として実施された後期高齢者健診の間診票と同時に、自記式調査票を自宅へ郵送し、回答、記入後の調査票を健診会場にて回収した。受診者 503 名の内、調査票への回答を得た 455 名のデータをベースラインデータとした。2020 年 8 月および 2021 年 4 月の両年の後期高齢者健診を受診し、2019 年と同様に実施した調査に回答を得た 153 名のデータを分析対象とした。

### 3) 倫理的配慮

本調査は桜美林大学研究倫理委員会の承認を受けて実施した（承認番号 17037）。

### 4) 分析方法

#### ① 目的変数

3 年間のそれぞれの調査における WHO-5J 得点を目的変数とした。

#### ② 説明変数

2019 年の WHO-5J を調整変数とした。外出状況及びその変化、人付き合いの状況及びその変化、COVID-19 予防のための生活の変化、疾病状況、暮らし向き、就業の有無、同居者の有無、手段的自立得点を説明変数とした。

#### ③ 統計解析

一般線形モデル（反復測定）による多変量解析により WHO-5J の推移に、COVID-19 予防のための生活の変化がどう影響するかを検討した。

### 3. 結果

COVID-19 感染者が未発生の地区において後期高齢者健診の受診率は著しく低下した。COVID-19 の流行による外出の変化(2020 夏)、暮らし向き(2019)、就業の有無(2019)、糖尿病薬物治療の有無(2019)、同居者の有無(2019)、手段的自立得点(2019)、の項目について、WHO-5J の変化との関連を、反復測定による一般線形モデルにより分析した。その結果、WHO-5J 得点は、COVID-19 による外出の減少(2020 夏)および暮らし向きが良くないこと(2019)により有意に低下した。

### 4. 考察

本研究により COVID-19 感染予防のための活動自粛行動により、農村在住後期高齢者の精神的健康状態を抑制していること、また、良好な経済状態は、高齢者の精神的健康度に好ましい影響を与えることが明らかになった。2019 年春に比較し、2020 年夏の健診では受診率が著しく低下していたことから、本研究の分析対象には、健康状態が比較的良好で、社会参加への影響が比較的少なかった者が多く含まれていると考えられ、COVID-19 感染予防のための影響を過小評価している可能性がある。

引用文献

- 1) 石倉 宏恭, 丸山 隼一, 入江 悠平, 他 : 重症新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の凝固線溶系異常の特徴—Case series—. 血栓止血誌, 31 (4) : 398-408 (2020).
- 2) Li Q, Guan X, Wu P, et al. : Early Transmission Dynamics in Wuhan, China, of Novel Coronavirus-Infected Pneumonia. *The New England Journal of Medicine*, 382 (13) : 1199-1207 (2020).
- 3) 新型コロナウイルス -Google ニュース  
(<https://news.google.com/covid19/map?hl=ja&gl=JP&ceid=JP%3Aja>, 2021.10.24 ) (2021).
- 4) 統計からみた我が国の高齢者 —「敬老の日」にちなんで—  
(<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1291.html>, 2021.12.3) (2021).
- 5) 大沢 愛子, 前島 伸一郎, 荒井 秀典, 他 : コロナ禍における高齢者の健康維持に向けた取り組み—NCGG-HEPOP 2020 の開発. 日本老年医学会雑誌, 58 (1) : 13-23 (2021).
- 6) 日本老年医学会 : 「新型コロナウイルス感染症」 高齢者として気をつけたいポイント  
([https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/citizen/pdf/coronavirus\\_01.pdf](https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/citizen/pdf/coronavirus_01.pdf), 2021.6.8) (2021).
- 7) 渡辺 修一郎 : ここに注目 ! 高齢者の新型コロナウイルス感染症対策は万全か. 月間シルバー人材センター, 398 : 24-27 (2020).
- 8) 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室 : 緊急事態宣言  
(<https://corona.go.jp/emergency/>, 2021.10.24) (2021).
- 9) 内閣官房 : 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針 令和 2 年 3 月 28 日 (令和 3 年 9 月 28 日変更) 新型コロナウイルス感染症対策本部決定  
([kihon\\_r\\_030928\\_2.pdf](https://www.kihon.r.030928.2.pdf) ([corona.go.jp](https://corona.go.jp)), 2021.10.24) (2021).
- 10) 日本経済新聞 : チャートで見るコロナワクチン 世界の接種状況は  
(<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-vaccine-status/>, 2021.11.20) (2021).
- 11) 農林水産省 : 農村における人口減少  
([https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w\\_maff/h26/h26\\_h/trend/part1/chap0/c0\\_1\\_01.html](https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h26/h26_h/trend/part1/chap0/c0_1_01.html), 2021.12.14) (2021).
- 12) 増地 あゆみ, 岸 玲子 : 高齢者の抑うつとその関連要因についての文献的考察—ソーシャルサポート・ネットワークとの関連を中心に—. 日本公衆衛生雑誌, 48 (6) : 435-448 (2001).
- 13) 山内 加奈子, 斉藤 功, 加藤 匡宏, 他 : 地域高齢者の主観的健康感の変化に影響を及ぼす心理・社会活動要因 5 年間の追跡調査. 日本公衆衛生雑誌, 62 (9) : 537-547 (2015).
- 14) 川本 龍一, 土井 貴明, 岡山 雅信, 他 : 地域在住高齢者の精神的健康に対する介護の影響に関する調査. 日本老年医学会雑誌, 37 (11) : 912-920 (2000).

- 15) 諸井 克英：改訂 UCLA 孤独感尺度の次元性の検討. 静岡大学人文学部人文論集, 23-51 : (1991).
- 16) 舛田 ゆづり, 田岡 悦子, 臺 有桂：高齢者における日本語版 UCLA 孤独感尺度（第3版）の開発とその信頼性・妥当性の検討. 日本地域看護学会誌, 15 (1) : 25-32 (2012).
- 17) 岩佐 一, 稲垣 宏樹, 吉田 祐子, 他：地域在住高齢者における日本語版「WHO-5 精神的健康状態表」(WHO-5-J) の標準化. 老年社会学, 36 (3) : 48-55 (2014).
- 18) 岩佐 一, 権藤 泰之, 増井 幸恵, 他：日本語版「WHO-5 精神的健康状態表」の信頼性ならびに妥当性—地域高齢者を対象とした検討—. 厚生指標, 54 (8) : 48-55 (2007).
- 19) 長田 篤, 山縣 然太朗, 中村 和彦, 他：地域高齢者の主観的幸福感とその関連要因の性差. 日本老年医学会雑誌, 36 (12) : 868-873 (1999).
- 20) 神崎 恒一：アルツハイマー病の臨床診断. 日本老年医学会雑誌, 49 (4) : 419-424 (2012).
- 21) 厚生労働省老健局老人保健課：介護予防マニュアル第7章（改訂版：平成24年3月）について ([https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/dl/tp0501-1\\_08.pdf](https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/dl/tp0501-1_08.pdf), 2021.12.14) (2021).
- 22) 本田 春彦, 植木 章三, 岡田 徹, 他：地域在住高齢者における自主活動への参加状況と心理社会的健康および生活機能との関係. 日本公衆衛生雑誌, 57 (11) : 968-976 (2010).
- 23) 三徳 和子, 高橋 俊彦, 星 旦二：高齢者の健康関連要因と主観的健康感. 川崎医療福祉学会, 15 (2) : 411-421 (2006).
- 24) 村田 伸, 大山 美智江, 大田尾 浩, 他：在宅高齢者の運動習慣と身体・認知・心理機能との関連. 行動医学研究, 15 (1) : 1-9 (2010).
- 25) 川本 龍一, 吉田 理, 土井 貴明：地域在住高齢者の精神的健康に関する調査. 日本老年医学会雑誌, 41 (1) : 92-98, (2004).
- 26) 松林 公蔵, 奥宮 清人, 河本 昭子, 他：地域在住老年者の自立度に関する経年的変化—香北町研究—. 日本老年医学会雑誌, 31 (10) : 752-758 (1994).
- 27) 星 旦二, 中山 直子, 井上 直子, 他：都市郊外在住高齢者の身体的, 精神的, 社会的健康の経年変化とその因果関係. 日本健康教育学会誌, 18 (2) : 103-114 (2010).
- 28) Strawbridge WJ, Cohen RD, Shema SJ, et al. : Successful aging: predictors and associated activities. *Am J Epidemiol* , 144(2) : 135-141 (1996).
- 29) Yohsuke Takasaki, Norito Kawakami, Masao Tuychiya, et al. : Heart disease, other circulatory diseases, and onset of major depression among community residents in Japan: results of the world mental health survey japan2002-2004, *Okayama University Medical School* , 62(4) : 241-249 (2008).

- 30) 高橋 龍太郎, 深沢 久子, 出雲 祐二, 他: 地域で生活する高齢者糖尿病患者の生活実態の比較分析. 日本老年医学会雑誌, 31 (5): 404-410 (1994).
- 31) 荒木 厚, 井藤 英喜: 「高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017」を踏まえた治療の要点と展望. 日本老年医学会雑誌, 55 (1): 1-12 (2018).
- 32) 鈴木 隆雄, 岩佐 一, 吉田 英世, 他: 地域高齢者を対象とした要介護予防のための包括的健診(「お達者健診」)についての研究 1. 受診者と非受診者の特性について. 日本公衆衛生雑誌, 50 (1): 39-48 (2003).
- 33) 東京都健康長寿医療センター研究所 健康長寿新ガイドライン策定委員会: 健康長寿新ガイドラインエビデンスブック. 107-113 (2021).
- 34) 井上 智代, 渡辺 修一郎: 農村における健康に資するソーシャルキャピタルの質的分析—高齢者へのグループ・インタビューを通じて—. 日本農村医学会雑誌, 63 (5): 723-733 (2015).
- 35) 林 雅人: 農村における生活習慣病の臨床疫学的研究. 日本農村医学会雑誌, 48 (4): 6003-615 (1999).
- 36) 岡山 寧子, 木村 みさか, 佐藤 泉, 他: 東北農村部における高齢者の身体活動および食事摂取の季節変動(健康づくり事業に参加する高齢者の場合). 日本生気象学会誌, 41 (3): 77-85 (2004).
- 37) 木村 美也子, 尾島 俊之, 近藤 克則: 新型コロナウイルス感染症流行下での高齢者の生活への示唆: JAGES 研究の知見から. 日本健康開発雑誌, 41: 1-10 (2020).
- 38) 堀田 聡子, 川越 雅弘: 新型コロナウイルス感染症が介護・高齢者に及ぼす影響と現場での取り組み・工夫に関する緊急調査【介護保険サービス事業所調査】調査結果報告書. 人とまちづくり研究所, (2020).
- 39) 佐藤 洋一郎, 大内 潤子, 林 裕子, 他: 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行初期における地域高齢者の健康関連 QOL. 理学療法科学, 35 (6): 813-818 (2020).
- 40) Roschel H, Artioli GG, Gualano B: Risk of Increased Physical Inactivity During COVID-19 Outbreak in Older People: A Call for Actions. *The American Geriatrics Society*, 68: 1126-1158 (2020).
- 41) 重村 敦, 高橋 晶, 大江 美佐里, 他: COVID-19(新型コロナウイルス感染症)が及ぼす心理社会的影響の理解に向けて. *トラウマティック・ストレス*, 18 (1): 1-9 (2020).
- 42) Cigiloglu Ahmet, Ozturk Zeynel Abidin: How have older adults reacted to coronavirus disease 2019? : *Psychogeriatrics*, 21 (1) : 112-117 (2021) .
- 43) 孺恋村役場 総務課: 孺恋村紹介  
([https://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/mura/tsumagoi\\_shoukai/](https://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/mura/tsumagoi_shoukai/), 2021.12.14)



- 44) 嬭恋村役場 総合政策課：令和元年統計調査結果嬭恋村統計書  
([http://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/mura/siryou/files/R1\\_toukei.pdf](http://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/mura/siryou/files/R1_toukei.pdf), 2021.12.14)  
(2020).
- 45) GD Freak! 事実に基づく思考のために：グラフで見る！嬭恋村の2025年の人口ピラミッド  
(<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001010425/8>, 2021.12.14) (2021).
- 46) 杉澤 秀博, 岸野 洋久, 杉原 陽子, 他：全国高齢者に対する12年間の縦断調査の脱落者・継続回答者の特性. 日本公衆衛生雑誌, 47 (4) : 337-349 (2000).
- 47) 村田 伸, 津田 彰, 稲谷 ふみ枝：健常高齢者及び慢性疾患を有する高齢者の主観的健康感. 行動医学研究, 11 (1) : 23-31 (2005).
- 48) 平井 寛, 近藤 克則, 尾島 俊之, 他：地域在住高齢者の要介護認定のリスク要因の検討 AGESプロジェクト3年間の追跡研究. 日本公衆衛生雑誌, 56 (8) : 501-512 (2009).
- 49) 藤原 佳典, 新開 昇二, 天野 秀紀, 他：自立高齢者における老研式活動能力指標得点の変動 生活機能の個別評価に向けた検討. 日本公衆衛生雑誌, 50 (4) : 360-367 (2003).
- 50) 厚生労働省：国民健康・栄養調査 / 令和元年国民健康・栄養調査  
(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450171&tstat=000001041744&cycle=7&tclass1=00000>, 2021.12.13) (2020).
- 51) 増山 真緒子：表情する世界＝共同主観性の心理学. 第1版, 174-219, 新曜社, 東京 (1991).
- 52) 総務省統計局：令和2年国勢調査群馬県総務部統計課  
([https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/outline\\_01.pdf](https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/outline_01.pdf), 2022.1.9) (2020).
- 53) 群馬県統計情報システムぐんまの情報：一人暮らし高齢者基礎調査  
(<https://toukei.pref.gunma.jp/order4.html?page=2>, 2022.1.9) (2020).
- 54) 総務省統計局：労働力調査（基本集計）2020年（令和2年）平均結果  
(<https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/ft/pdf/index.pdf>, 2022.1.9) (2020).
- 55) 前田 清, 太田 壽城, 芳賀 博, 他：高齢者のQOLに対する身体活動習慣の影響. 日本公衆衛生雑誌, 49 (6) : 479-506 (2002).
- 56) Hiroyuki Kikuchi , Masaki Machida, Itaru Nakamura , et al. : Changes in Psychological Distress During the COVID-19 Pandemic in Japan: A Longitudinal Study. *Journal of Epidemiology*, 30(11) : 522-528 (2020).
- 57) 藤田 幸司, 藤原 佳典, 熊谷 修, 他：地域在宅高齢者の外出頻度別にみた身体・心理・社会的特徴. 日本公衆衛生雑誌, 51 (3) : 168-180 (2004).

- 58) 中井 雄貴, 富岡 一俊, 谷口 善昭, 他 : COVID-19 対策に伴う外出自粛時期の地域在住高齢者における身体活動量変化—運動教室に参加していた高齢者を対象とした調査—. 理学療法科学, 36 (1) : 35-40 (2021).